

製品名: ACK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06504**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	115kDa

抗原情報

遺伝子名	TNK2
別名	TNK2; ACK1; Activated CDC42 kinase 1; ACK-1; Tyrosine kinase non-receptor protein 2
遺伝子 ID	10188.0
SwissProt ID	Q07912
免疫原	抗血清はヒト ACK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 250-299

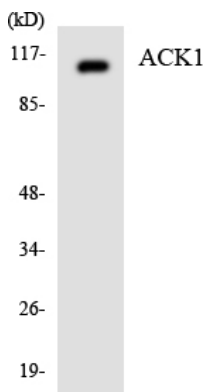
背景

この遺伝子は、GTP 結合型の Cdc42Hs に結合し、Cdc42Hs の本来の GTPase 活性および GTPase 活性化タンパク質 (GAP) 刺激による GTPase 活性の両方を阻害するチロシンキナーゼをコードしています。この結合は、SH3 ドメインの C 末端に位置する 47 アミノ

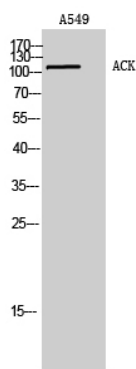
酸からなる独自の配列によって媒介されます。このタンパク質は、Cdc42Hs の GTP 結合型活性を維持する制御機構に関与している可能性があり、この機構はチロシンリン酸化シグナル伝達経路に直接関連しています。この遺伝子からは、選択的スプライシングを受けた複数の転写バリエーションが同定されていますが、全長が決定されているのは2つの転写バリエーションのみです。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。 ,補因子: マグネシウム。 ,酵素調節: SH3 ドメインは自己阻害の役割を果たすと考えられる。 ,機能: CDC42 の下流エフェクターであり、BCAR1 のリン酸化を介して CDC42 依存性細胞遊走を媒介する。ポリユビキチンとモノユビキチンの両方に結合し、EGFR のリガンド誘導性分解を制御する。クラスリンを介したエンドサイトーシスに関与する。成体のシナプス機能と可塑性、および脳の発達の両方に関与している可能性がある。 ,配列に関する注意: ありそうもないアイソフォーム。異常なスプライス部位。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンキナーゼファミリー。 ,類似性:1つの CRIB ドメインを含む。 ,類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。 ,類似性:1つの SH3 ドメインを含む。 ,サブユニット:CDC42 と相互作用する。活性化 CSPG4 と相互作用する。 ,

研究分野

画像データ



ACK1 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



ACK ポリクローナル抗体を用いた A549 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。